



関宮学園

学校だより 36号
R8. 1. 29

校訓「敬・愛・信」

長期休業日の期間の変更

1月21日付けの文書で保護者の皆様には既にお知らせしているところですが、地域の皆様にも知りていただきたく、学校だよりも改めてお知らせします。

令和8年度からの長期休業日について、次のとおり変更になります。

春休み 3月25日～4月 7日 *【変更前】4月 6日→【変更後】4月 7日

夏休み 7月21日～8月31日 *【変更前】8月24日→【変更後】8月31日

冬休み 12月25日～1月 6日 *変更なし

21日(水)には、子どもたちに次のとおり説明しました。

- ・来年度から、養父市内の学校の春休みと夏休みの日にちが変わります。
- ・春休みはこれまでより、1日長くなります。これまで、1学期の始業式を4月7日に行っていましたが、これからは4月8日になります。
- ・また、夏休みは、1週間長くなります。これまで、2学期の始業式を8月25日に行っていましたが、これからは、9月1日になります。
- ・春休みと夏休みの始まる日にちは、これまでと変わりません。
- ・休みが長くなったのは、みんなが夢や目標に向かって、やる気をもって、やりたいことを自分で決める。そのような日を増やしたいという理由からです。
- ・6日間、休みが増えます。その時間を自分のためになるよう使って、みんなに大きく成長してほしいと思っています。
- ・先生たちも、休みを使って、新学期の準備を行ったり、たくさん勉強したりします。

さまざまな雪景色

1月20日(火)にハチ高原スキー場で、前期課程のスキー教室を行いました。本校は校区内にスキー場が存在する数少ない学校です。身近な地域の教材を自校の教育に生かすことは、子どもたちの興味や関心を高め、深い学びを実現するために欠かせません。スキーを楽しみながら、ふるさと意識の醸成を図りたいと考えています。実施にあたり、スキー場関係者の皆様や保護者の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

22日(木)には大雪警報が発令され、臨時休業としました。地域の皆様には、通学路の除雪作業で大変お世話になりました。警報解除後も、通学路の除雪作業が間に合っ

ていないという学校もあると聞きます。そのようななか、本校は皆様のおかげで、安全に通学することができています。

23日(金)には、校地内に、除雪作業で積み上げられた巨大な雪山が出現しました。子どもたちは、雪山に登って遊んだり、そり滑りをしたりして、雪を楽しみました。26日(月)には、関宮こども園の園児たちも遊びに来てくれ、賑やかな一日になりました。

修了の書を制作

1月27日(火)、書道家 華汀先生をゲストティーチャーにお招きし、6年生が修了の書を制作しました。事前に、これから生きていく上で大切にしたい言葉を考え、それを書にしました。

神戸新聞の記事にもあったように、華汀先生は台湾の書道の全国大会の審査員を務められ、前日に帰国されたばかりでした。台湾でも書道がさかんですが、日本のように1枚の紙に大きく文字を書くのではなく、小さな字をたくさん書くのだそうです。中国では、複雑な漢字の簡略化が進み、日常生活では、古い字体を使うことが少なくなっていますが、書道では古い字体が大切にされています。書をとおして異文化理解が深まりました。

また、筆順の大切さも話題になりました。例えば、「馬」という漢字はどのように書くでしょうか。漢字は、モノの形や意味から成り立っています。華汀先生は、次のように説明されているそうです。最初に、縦の線(馬の頭から首)を書きます。次に、横の線(たてがみ)を書いて、胴体、そして最後に4本の足を書きます。漢字の成り立ちについて考えるのも、興味深い学びにつながると感じました。

授業では、「とめ」や「はらい」、行書などについて指導を受けました。先生が手本を書き始められると、子どもたちは練習を止め、見入っていました。先生の指導を受けていると、授業を参観していた教職員も思わず筆を執りたくなる、そのような授業でした。

2月6日から神戸市立博物館での大ゴッホ展で『アルルの跳ね橋』が鑑賞できるという記事を読みました。『アルルの跳ね橋』は、今から40年以上前、私が使った教科書に掲載されていた記憶があります。教科書に関する記憶として残っている一つです。覚えているのは、絵にインパクトがあったからだと思います。教科書の記憶と言えば、他に英語でタイタニック号の沈没の物語が載っていたことを覚えています。

さて、関宮学園の子どもたちには、教科書の記憶がどれだけ残るのでしょうか。国語の教科書で読んだ文学作品や美術・図工の教科書で鑑賞した作品など、子どもたちが教科書と素敵な出会いができるよう応援したいです。

教科書を読むことは学習の基本です。繰り返し音読したり、問題練習を積み重ねたりすることで、学力が身につきます。教科書は最良の参考書であると言えます。